

# 洪水

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことです。  
狭い地域に限られ突発的に降るため、道路や低い土地が浸水することがあります。

## 集中豪雨の危険を知っておこう

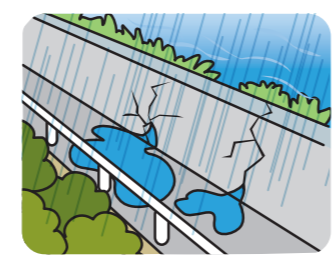
### 短時間で危険な水位

河川、溪流、用水路、側溝などは、激しい雨が降ることや、まわりから雨が流れ込むことで、数分から数十分で危険な状態になります。



### 注意報や警報が出ない雨でも、災害が発生する

大雨や洪水の注意報・警報の発表基準に達していない雨でも、災害が発生するおそれがあります。



### 下水の排水能力を超える大雨

下水道の排水能力を大きく超える雨が降ると、排水が間に合わず、浸水し、危険な状態になる場合があります。



### 離れた場所の雨でも影響する

自分のいる場所で強い雨が降ってなくても、上流側で降った雨が流れてきて、危険な状態になる場合があります。

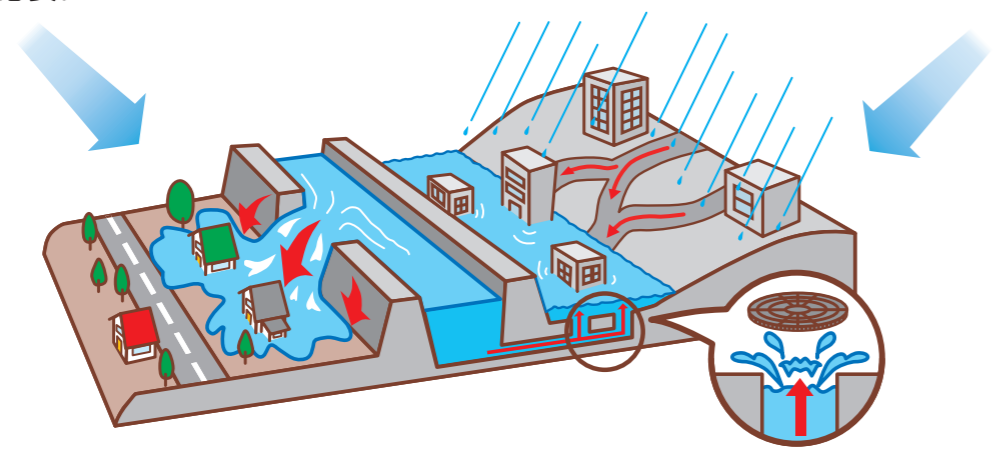


## 氾濫の種類

降水量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり、堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、浸水する「内水氾濫」の2つのタイプがあります。

**外水氾濫** 大雨の水が川に集まり、川の水かさが増して堤防を超える、あるいは堤防を決壊させて川の水が堤防の外にあふれて起きる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要。

**内水氾濫** 川があふれなくてもくぼ地などにおいて雨水が排水できずに浸水すること。的確なタイミングで警報が出ないため、注意が必要。



## 市内では、これまでに多くの洪水災害が発生しています

### 昭和28年の北九州大水害

昭和28年6月、北九州地方の豪雨では旧小倉市の4日間の総降水量が696.5ミリと、驚異的な豪雨となりました。  
特に28日午前9時から正午までの降水量は200ミリを超え、市内では河川が氾濫したり各地での堤防が決壊し、旧小倉市内では、家屋の8割近くが浸水するという大きな被害となりました。



昭和28年6月小倉北区(朝日新聞社撮影)



平成30年7月小倉北区

## 雨の強さと降り方

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量 10~20mm	1時間雨量 20~30mm	1時間雨量 30~50mm	1時間雨量 50~80mm	1時間雨量 80mm以上
ザーザーと降り、雨の音で話し声が良く聞き取れない。	どしゃ降り、傘をさしてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい。	バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。	滝のように降り、傘は全く役に立たなくなる。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。

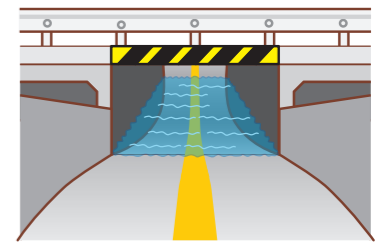
### 注意

## 浸水してから避難するのはとても危険です

自動車が冠水した道路を走行する場合、水深が車両の床面を超えると、エンジン、電気装置等に不具合が発生するおそれがあります。  
また、水深がドアの下端にかかると、車外の水圧により内側からドアを開けることが困難となり、ドアの高さの半分を超えると、内側からほぼ開けられなくなります。  
万が一に備えて緊急脱出ハンマー、シートベルトカッターなどを運転者の手が届く場所に用意しておきましょう。



大雨の時は、高架下のアンダーパスや地下道など、周囲より低く冠水しやすい道路の通行は避けましょう。  
万が一、車が動かなくなったら、脱出することを第一に考えてください。






# 避難のタイミング

## 早めの避難

浸水が始まってから避難するのはとても危険です。  
避難情報にしたがって、浸水前の早い段階で安全な場所に避難しましょう。

### 市から避難情報が発令された時は!!

警戒レベル	市が発令する避難情報	住民がとるべき行動
<b>5</b>	<b>緊急安全確保</b>	すでに安全な避難ができず、命が危険な状況です。直ちに身の安全を確保する行動をとりましょう。 
～ <警戒レベル4までに必ず避難!> ～		
<b>4</b>	<b>避難指示</b>	河川の氾濫で浸水が発生するおそれが高まっています。危険な場所から全員避難を開始し、早めに避難を完了させましょう。 
<b>3</b>	<b>高齢者等避難</b>	河川の氾濫で浸水が発生するおそれがあります。高齢者や障害のある方など避難に時間がかかる方は避難を開始し、早めに避難を完了させましょう。 

※ 具体的な避難行動はP29「避難行動判定フロー」で確認しましょう。

**! 防災気象情報に注意** 大雨により浸水災害の発生するおそれがある場合、気象庁から発表されます。

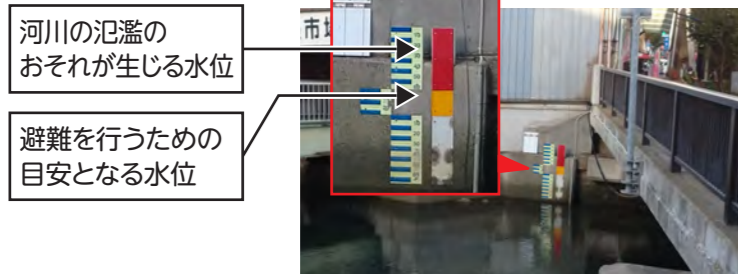
雨が強くなると **洪水注意報・大雨注意報**  
災害が起こるおそれがあります。

大雨が降り続けると **洪水警報・大雨警報(浸水害)**  
重大な災害が起こるおそれがあります。

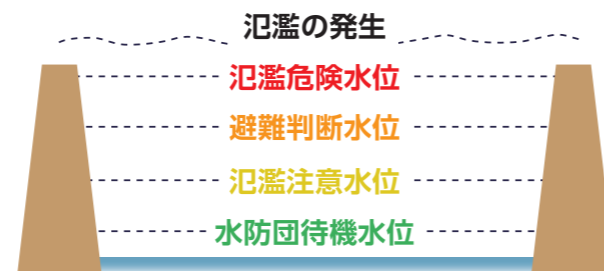
さらに激しい大雨が続くと **大雨特別警報(浸水害)**  
重大な災害が起こる可能性が非常に高まっているときに発表されます。

### ! 水位情報に注意

河川の水位情報やライブカメラは、ホームページ等で確認できます。大雨や洪水による河川の氾濫の目安として活用してください。



河川のライブカメラ画像(小倉北区・平和橋)



# 避難のポイント

## 避難するときに気をつけること

### 動きやすく、安全な服装で

ヘルメットで頭を保護し、靴は運動靴にする。裸足・長靴は厳禁。



### 足元に注意

道路が冠水すると足元が見えにくくなり、側溝やマンホールに気づきにくくなる。長い棒などを杖代わりにするなど、十分に注意して歩く。



### 川や用水路に近づかない

降雨が続く不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かない。



### 深さに注意

歩行が可能な水深の目安は約50センチ。水の流れる場合は20センチ程度でも危険になる。危ないと判断した場合は、無理をせず、高所で助けを待つ。



## 逃げ遅れたときには命を守る最善の行動を!!

避難が遅れて家の周りが浸水した場合、水の中を避難するのは危険な場合があります。自宅近くの建物など少しでも浸水しにくい高い場所に移動し、直ちに身の安全を確保しましょう。



**緊急安全確保**